

# キャリア研 中部大と連携強化

## 太陽電池の活用推進

### 電気自動車の学内に研究拠点 共用化など

三次元CAD設計のキャリア研(本社名古屋市中村区亀島二ノ六ノ一六・大升ビル内、富田茂社長、電話052・454・0495)は、太陽電池活用法の研究について中部大学との産学連携を強化する。このため、今月から春日井市の同大学総合研究センター棟にあるインキュベーションルームに入居し、新たな研究開発拠点を開設。十五日には、名古屋市長区葵三のメルパルクNAG OYAで開催される大学発ベンチャービジネスグランプリ発表会で、電気自動車共用システムの研究概要を紹介し、支援者を募る。



2000年に行われた京都パブリックカーシステムの実証実験

同社と中部大学との産学連携がスタートしたのは一昨年からで、同大学が取り組んでいるソーラー飛行船の開発に参画した。飛行船に無線LANの通信基地を搭載し、災害時などに上空の基地経由でインターネットへのアクセスを可能しようという研究だ。これに続いて進めようとしているのが、電気自動車の共用システムの確立。

①同大学で研究開発中のカーボン薄膜太陽電池によりソーラー発電を行う②屋外に設置する充電

(津田一孝)

電気自動車は無線LANを活用し、GPSと携帯電話による自動運転を「うー」という構想。電気自動車を個人所有ではなく共同利用を前提としているのは、駐車待ちがないなど、ロスタイムの圧縮が可能と判断しているためだ。

電気自動車の共同利用についての研究は、二〇〇〇年に自動車業界が参加する形で行われた。財団法人日本電動車両協会が産学官から成る委員会を設置して実施した京都パブリックカーシステムの実証実験で、CO<sub>2</sub>の排出、交通渋滞、騒音、駐車場問題など、自動車の普及が抱える負の側面を緩和する目的で行われた。

同社では「例えば携帯電話など、当時に比べれば必要な技術が格段に進歩している。地球環境問題も深刻化しており、研究継続の必要性を訴えていきたい(富田社長)とし、実証実験の実施などについての理解者を求めていきたい考えだ。